

## 第4学年1組 外国語活動学習指導案

第2校時 場所 視聴覚室 授業者 福永 真紀子

### 1 単元名 Unit 7 What do you want? ~友達も自分も喜くなる、オリジナルバースデーケーキをつくろう!~

Unit 7 What do you want? の単元では、パフェやピザづくりなどの活動をゴールに設定することで、つくるための材料を尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむことをねらいとする実践が多い。その活動でも子どもたちはたのしんだり、表現に慣れ親しんだりしている。しかし、3年生や4年生の前半で慣れ親しんできた多様な表現を使ってやり取りをすることができる場をより工夫したり、子どもたちの「誰かのために」という思いや「この人に喜んでもらえると、自分も喜くなる」という思いを高めながら活動に取り組んだりすることができるような学習過程を工夫したりすることで、より一層相手のことを考え、伝え合う内容を思考しながらコミュニケーションを図る子どもの姿が見られるのではないかと考える。

本実践では、クラスの友達に喜んでもらうことができそうな「オリジナルバースデーケーキ」をつくる活動を設定する。このバースデーケーキをつくるにあたって、その友達が好きなケーキの種類、形、好きな食べ物、ろうそくの色、大きさ、数等、渡す人に合ったケーキをつくるために材料を集めることで「相手のための材料を、英語のやり取りで集めてケーキを完成させることができた」という、コミュニケーションに対する満足感や「渡したときに嬉しそうしてくれてこちらも嬉しくなった」という喜びを感じられる子どもの姿を目指したい。

### 2 単元について

- (1) 本単元では、食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現 “What do you want?” “I want---, please.” に慣れ親しむことをねらいとしている。ここではケーキをつくる活動を設定することで “How many?” “Big or small?” “Do you like---?” “What--- do you like?” 等の既習表現も使いながらコミュニケーションを図ることができるようにしたい。
- (2) 子どもたちは第3学年 Unit 7 This is for you. の単元において、欲しいものの大きさ・色・形を “What do you want?” の表現を使って尋ねたり “I want (大きさ) (色) (形), please.” の表現を使って答えたりする表現に慣れ親しんできた。渡したい人に合ったケーキをつくるための材料を、この他にも既習表現を使いながらやり取りをすることで、詳しく尋ねたり答えたりすることができ、集めることができる場面を生み出すことができると考える。この単元が外国語科においての料理を注文したりそれに答えたりする英語表現の学習につながっていく。
- (3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数: 36人)
  - ① 外国語活動に対して「みんなと一緒に会話をしたり、あまり話さない友達とも話せたりするからたのしい」「いろんな英語や他の国のこと（国の言葉）を知れるのがたのしい」「好きな〇〇を知ることができるからたのしい」等、肯定的な子どもが多い。一方で「何と言っているのか分からない」という子どもや「たのしいけど少し苦手」等と答えている子どももいる。
  - ② 友達にもらって嬉しいものがあると答えた子どもが9割ほどいた。そのうち約半数は、昨年度つくったグリーティングカード、自己紹介の名刺、係活動でもらった折り紙と答えていた。嬉しかった理由として「一生懸命つくってくれたことが伝わったから」「わたしのためにつくってくれた」等と答えている。これらの実態から、自分のためにつくってくれた友達の思いや、それらをつくることによって友達に喜んでもらいたいという子どもの思いを大切にしたい。

### 3 単元の目標

- (1) 食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。
- (2) 相手に伝わるように工夫しながら、自分や友達が欲しい材料や数・大きさを伝え合う。
- (3) 自分や友達が欲しい材料や数・大きさを相手に正しく伝えようとする。

### 4 指導計画（5時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 ・ 2	1 単元の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の題名からどんな活動が考えられるか問うことで、3年生の活動を想起し「クラスメートのためにまた何かをつくりたい」「喜ぶ顔が見たい」という子どもの思いや願いを聴いた上で「渡した友達も、喜んでもらった自分も嬉しくなるバースデーケーキをつくれ渡す」ということを提案する。</li> <li>○ ケーキをつくるために、まずは副教材のパフェづくりをする場を設ける。そうすることで、既習表現である欲しいものの尋ね方や答え方の表現を思い出し「ケーキもパフェと同じようにつくっていけば完成できそう」という見通しをもつことができるようとする。</li> </ul>	<p>【知】 ケーキづくりの前に、練習的活動としてパフェをつくるために欲しい食材を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 (観察、振り返り)</p>
3 ・ 4	2 オリジナルバースデーケーキをつくる。 (1) ケーキを渡す相手や内容を考える。 (2) ケーキをつくるための材料を集める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ケーキをつくるために必要な材料を日本語や英語で確認し、やり取りをする場を設定することで、ケーキづくりを始めることができるようとする。</li> <li>○ ケーキづくりの材料を集めたり取りの中で、困ったことや分からなかつたこと、工夫して解決したことなどの表現を共有することで、表現や伝え方に着目してやり取りをし、渡したい友達に合わせたケーキを完成させることができるようとする。 (本時4/5)</li> </ul>	<p>【知】 ケーキをつくるための材料や数・大きさなどを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 (観察)</p> <p>【思】 【主】 欲しいものに応じて、表現を工夫している。／しようとしている。 (観察、振り返り)</p>
5	3 自分が友達につくったケーキを渡し、単元を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ケーキを渡し合う時間を設定することで、完成させることができたという満足感を感じたり、渡したときの友達の表情を見て自分の喜びも味わったりすることができるようとする。</li> <li>○ 単元全体の学びや思考の変容を言語化する場を設定することで、次の学びに生かすことができるようとする。</li> </ul>	<p>【主】 学習を振り返り、次の学習に生かそうとしている。 (振り返り)</p>

## 5 本時の学習

### (1) 目標

オリジナルバースデーケーキをつくるために、ケーキに使う材料の種類や数、大きさを尋ねたり答えたりして集める活動を通して、相手に伝わるように工夫しながら伝え合う。

### (2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
10	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をたてる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 欲しい材料はあったんだけど、何て言ったらお店さんに伝わるのかが分からぬ。</li> <li>○ お店さんの立場をしたときに、お客様は何が欲しかったかいまいちよく分からなかつた。</li> <li>○ このままだったらケーキが完成しないよ。</li> <li>○ 渡す人が好きそうな材料を集めたいから、もっとくわしくやり取りをしないといけないのかも。</li> <li>○ 他にも色んな英語を使うと材料が集まるかもな。</li> <li>○ 「何の形が欲しいの？」って聞きたかったんだけど“What shape do you like?”で聞けそう。</li> <li>○ たしかに！ “What fruits do you like?”でも使えるよ。他のお店でもこの表現なら使えるんじゃない？</li> <li>○ フルーツショップでは “Big or small?”って聞かれたよ。それならうちのお店でも使えそう。</li> <li>○ ろうそくや食べ物の数を聞きたいときには3年生のときに使ったことがある “How many?”が使えそうだ。</li> <li>○ 同じグループの友達と一緒に言い方の練習をしてみよう。早速英語を使って材料を集めのぞ。</li> <li>○ よし、えーっと。掲示物を見て・・・“What shape do you like?”</li> </ul>
10	2 友達に喜んでもらえそうなケーキの材料にするために、どのような英語表現を使えば今よりも材料を集めることができるか考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ えーっと・・・△△ちゃんのパフェを見るとお皿の形が丸だから・・・“I like circle.”</li> <li>○ えっ、でもどの色がいいのかな・・・“What color do you like?”</li> <li>○ “I like blue. Thank you!” よし、材料が集まつた！</li> </ul>
15	3 友達とやり取りをしながら材料を集め、オリジナルバースデーケーキを完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先生、今日はたくさんの英語の種類を聞いたり、答えたりしました！ハウメニーとか、ワッカーラーとか。言われてみればやってきたな～って思い出しました。</li> <li>○ 前の時間になかなかくわしく英語で話せなかつたけど、今日は今まで使ってきた英語を使ってみると、前の時間より英語でやり取りがきて嬉しかつたです。</li> <li>○ 前の学習で学んだことが、ここでも使えるっていいなと思いました。心配になつたら掲示物を見ました。</li> <li>○ “How many---?”をやり取りの中で使いながら材料を集めました。ケーキを渡すのがたのしみです。</li> </ul>
10	4 本時の学習を振り返る。	



友達のためにオリジナルバースデーケーキをつくっている子どもたちは「友達が好きな材料をできるだけたくさん集めたい」という思いをもっています。本時では既習表現を想起したり、その表現を使って詳しく話したりながら、渡す友達に合わせたオリジナルバースデーケーキの完成を目指します。

#### 主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 前時の「詳しく言わないと伝わらない」「『どんな形が欲しいの？』と尋ねたいけど上手く言えない」という、材料を集める・提供する子どもの困り事を全体で取り上げ、具体的な場面を想起させることで、他の子どもたちも表現や伝え方を考えることができるようになる。
- 「欲しい材料が集まらないとその人に合ったケーキが完成しない」という発言に対して、今まで使ってきた中で、どのような英語表現を使えば自分が欲しい・相手が欲しがっている材料が伝わるかを問うことで「この英語表現を使えば集まりそう」「もっと色んな英語表現が使えそう」と言った発言を引き出し、表現の工夫に焦点を当て、本時の課題を設定する。

どんな英語表現なら、自分がほしいもの・相手がほしいものがくわしく伝わるのだろう。

- 前時の活動で“What do you want?” “I want---, please.” 以外の英語表現を使っていた子どもに問うたり、模造紙を見ながら想起することを促したりすることで、前時に使った表現や、これなら使えそうという表現を共有することができるようになる。
- 活動に入る前に“Big or small?” や “How many---?”、“Do you like---?” “How about---?” 等の既習表現を使いながらやり取りの練習をやってみる時間を設定することで、発音や表現をもう一度確認したり、次の活動で自信をもって表現を使ったりすることができるようになる。
- 子どもたちが活動する中で困っていたり、英語表現を使いながら材料を集めたりしている姿を見取る。困っている子どもには「何が欲しいって言いたかったの？」と問い合わせたり「この友達には何て言ったら伝わりそう？」と他の友達に繋げたりすることで、子どもたち同士が関わり合いながら材料を集めることができるようになる。材料を集めることができない子どもにも「どうやって聞いたの？」と問うてできたことを言語化するよう促すことで、使った英語表現を価値付け、子どもが次のやり取りでも使うことができるようになる。
- 活動の後、全体の場で「ケーキをつくるにあたっての材料集めでどのような英語表現を使ったか」と子どもたちに問うことで、活動を振り返り工夫したことが分かるよう共有する。
- 振り返りでは「やり取りの中で気付いたこと・嬉しかったこと」について振り返りを記述することと「やり取りの中で使った英語表現」をタブレットの音声機能で録音するよう促す。そうすることで、自分の活動や使った英語表現を振り返り、次の活動でも使うことができるようになる。
- 互いの学びや気付き、活動時の表現のよさや工夫等をいくつか交流し、自分の表現や思いと比較することで、友達の表現や伝え方のよさ、違いに気付くことができるようになる。

#### 【教材・教具】

- 既習表現を書き留めた模造紙
- オリジナルバースデーケーキ
- ケーキの材料

#### 【評価】

材料の色や大きさ・数、形などの表現を使って欲しいものを尋ねたり答えたり、言語表現・非言語表現を用いたりするなどの工夫を行いながらやり取りをしている。  
(行動観察・振り返り)

